

北海道支部ニュース 第49号

日本分析化学会 北海道支部 2014 年 8 月

支部長挨拶



日本分析化学会北海道支部長
宇都 正幸
(北見工業大学)

2014 年度の日本分析化学会北海道支部長を仰せつかりました北見工大の宇都です。学生時代に入会して以来、30 年以上にわたってお世話になってきた日本分析化学会北海道支部のために少しでもお役にたてればとの思いでこの大役をお引き受けした次第です。

北海道支部は分析化学会 7 支部の中で最も小さな支部でありながら、活発な活動を続けてまいりました。これもひとえに会員の皆様と歴代の支部長の先生方の熱心な働きがあったからこそと思います。今、支部長という立場に立ち、微力ながらも支部の発展に寄与していくことが務めと改めて身の引き締まる思いです。

奇しくも今年度は緑陰セミナーが第 30 回、氷雪セミナーが第 50 回という節目の回を迎えます。緑陰セミナーは北海道大学地球環境科学院の山田幸司先生が実行委員長を務められ、7 月に釧路で開催されました。記念回にふさわしく、参加研究室の学生間の交流が和やかに行われ、また講師の先生方の気力溢れるご講演が参加者に刺激を与えていました。詳細については、ニュースの事業報告に譲りたいと思います。氷雪セミナーは北海道大学工学研究院の渡慶次先生を実行委員長に開催される予定です。ぜひ多くの支部会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

すでにご存じかと思いますが、毎年5月と9月に開催される分析化学の全国大会・討論会と年会に実行委員会企画のシンポジウムに加えて、本部企

画の事業が加わることになりました。今秋広島大学を会場に開催される第 63 年会の【第 1 回アジア分析科学シンポジウム 2014】と【特別公開シンポジウム（「産業界における研究開発と分析ソリューション」シンポジウム）】がそれにあたります。また、これまで 7 支部の持ち回りであった開催に、本部主催の開催が加わり、各支部では 8 年周期で開催されることが決まっております。北海道で開催される直近の全国大会は 2016 年の第 65 年会となります。今年度中には年会準備委員会が立ち上げられ、開催準備に入る予定です。

諸々の事業がつつがなく運営されることを願っておりますが、支部運営に関わることとして重要な宿題をいただいております。支部長任期と支部規定の見直しについてです。これまで支部長任期は 1 年で運営されてきましたが、日本分析化学会が公益法人となり、本部より支部長任期を 2 年とすることを強く求められてきました。これに対応すべく、2014 年、2015 年の支部長を宇都が務めることを昨年度の幹事会、審議会でお認めいただいておりますが、支部長任期の変更に伴い、支部規定の見直しが必要となります。企画委員会委員長の大澤雅俊先生(北海道大学触媒化学研究センター)を中心に改正案を準備させていただき、第 2 回幹事会および審議会で審議し、決定していきたいと考えております。その過程で支部会員皆様から直接ご意見をいただけるような仕組みを取り入れていきたいと思っております。支部ホーム

ページもしくはメールでのご案内になるかと思いますが、その際はよろしくお願い申し上げます。

今年度は例年通りの事業開催予定で、これから公開セミナー、冰雪セミナー、冬季研究発表会などが開催されます。しかし、学会全体の財政状況は必ずしも順風満帆という状況にはなく、今後はその開催方法などを見直しながら、より効率的に、また会員の皆様にご満足いただけるような内容の充実に努めていかなければならないと考えております。

支部運営について会員の皆様のご意見、ご要望、ご提案など、支部事務局 (jsac-hb@w9.dion.ne.jp) まで遠慮なくお寄せください。今後の支部の運営に、できる限り反映させていただきます。

本支部のモットーである「粉骨砕身、滅私奉公」の精神を忘れずに、日本分析化学会北海道支部の発展に少しでも寄与できればと願っております。

支部会員皆様のご協力をお願い申し上げます

(うと・まさゆき)



これからの行事予定

2014年度 公開セミナー

北海道支部公開セミナー: 来る9月4日(木) 14 時 45 分より、旭川工業高等専門学校階段教室(旭川市春光台2条2丁目1-6)において、公開セミナーが開催されます。北海



道大学大学院工学研究院の佐藤敏文先生が「多角度光散乱検出器と粘度検出器を用いた高分子の形状情報解析」、旭川工業高等専門学校の吉田雅紀先生が「第一級アミノ酸およびその塩を触媒として用いた不斉合成—機器分析による反応機構解析—」と題して講演されます。参加費無料、事前登録は不要です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

〈旭川工業高等専門学校 堺井 亮介〉

2014年 北海道地区化学教育研究協議会

2014 年度の北海道地区化学教育研究協議会は、11 月8日土曜日、北海道大学大学院地球環境科学研究院 D201 講義室で開催されます。小、中、高等学校および大学の化学教育に関心のある教員および大学生が例年 60 名ほど集まり、各学校種からの提言および学校種を超えた討論を行います。

今年の特別講演には、富山高等専門学校物質

化学工学科の河合孝恵先生をお招きして、「宝石や金」に関わるご講演を頂く予定です。詳細な会告については、追ってご連絡致しますが、参加費は無料ですので、多くの会員のご参加をお待ちしております。

(北海道大学大学院理学院 諸角 達也)

これまでの終了行事報告



第 49 回 冰雪セミナー

第 49 回の冰雪セミナーは、本年1月 11 日 13 時(土)から12 日 12 時(日)にわたり、例年どおり『かん

ぽの宿小樽』で開催された。11 日午後は黒澤支部長の挨拶にはじまり、以下のお二人の先生に話題提供を頂いた。佐田先生にはご自身の研究に加え、平成 26 年度に採択された北大のリーディングプログラムについても紹介して頂いた。

1) 奥津 哲夫先生(群馬大学理工学部 化学・生物学科・教授)

『光化学反応を用いたタンパク質の結晶育成』

2) 佐田 和己(北海道大学大学院理学研究院 化学部門・教授)

『温度応答性高分子の分子設計』および『物質科学フロンティアを開拓する Ambitious レーザー育成プログラム』

また、12 日午前には北川先生と渡慶次先生にご講演頂いた。

3) 北川 文彦(弘前大学理工学部 物質創成化学

科・准教授)

『簡易操作型電気泳動チップによる生体試料の高感度分析』

4) 渡慶次 学(北海道大学大学院工学研究院 生物機能高分子部門・教授)

『マイクロ・ナノ流体デバイスによる分析・診断・治療への展開』

今年のセミナーには計 27 名の参加があり、4人の先生方からの興味深いご講演を拝聴させて頂いた。また、例年通り、懇親会では講師の先生方と交え、食事と酒、さらに部分的にカラオケも入り、楽

しいひと時を過ごすことができた。ご参加頂いた方々、また、セミナーに差し入れを頂いた企業・個人の方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

なお、来年は渡慶次先生のお世話で 50 回記念の氷雪セミナーが開催されることになっている。会員各位のご参加をお願い致します。

(北海道大学大学院理学研究院
喜多村 昇)



化学系学協会北海道支部 2014 年冬季研究発表会

化学系学協会北海道支部 2014 年冬季研究発表会(共催:日本分析化学会・日本化学会・触媒学会・電気化学会・腐食防食学会・表面技術協会・石油学会の各北海道支部)が、2014 年 1 月 28 日(火)・29 日(水)の両日、北海道大学学術交流会館で開催されました。192 件の一般講演(口頭発表 120 件およびポスター発表 72 件)と 1 件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や議論がありました。特別講演には、名古屋大学の馬場嘉信先生をお招きし、「ナノ・量子バイオデバイスによる次世代がん診断・治療と iPS 細胞再生医



特別講演の馬場嘉信先生



特別講演の会場風景



懇親会



ポスター会場



優秀講演賞受賞者

(上：北大，左下：旭川高専，右下：室蘭工大)

療」と題してご講演いただきました。また例年通り、学生の講演に対して優秀講演賞が選定されました(口頭発表6件、ポスター発表4件)。今年は、2月14日に北海道大学工学部材料化学棟にて実行委員長の当方より受賞者へ表彰状を授与しました(旭川高専ならびに室蘭工大の受賞者各1名については2月18日に、旭川高専にて石油学会北海道支部長の宮越先生より、また室蘭工大にて実行委員の境先生より、それぞれ授与)。参加登録者数

は425名(一般130名、学生295名)でした。1月28日(火)の18時から、北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにて懇親会が開催されました。馬場先生を含め41名の参加のもと、盛況な会となりました。

今回の冬季研発表会では、経費削減と実行委員の負担軽減のための新しい試みとして、要旨集の電子化と参加申込のweb登録(受付での用紙記入による当日登録の廃止)を実施し、受付ではプログラム集を冊子体として配付しました。かなり大幅な変更を伴うため協賛学協会支部長会議に諮っていただきました。分析化学会道支部をはじめ協賛学協会各支部には大変お手数をお掛けしましたが、各支部から前向きな回答をいただき、実施に踏み切った次第です。実施にあたっては、初めての試みでかつ周知不足のために問い合わせが多く、当日の受付においても多少の混乱が生まれました。講演者・参加者の皆さまにご不便とご迷惑をお掛けしましたこと、実行委員長としてこの場を借りてお詫び申し上げます。要旨集電子化とweb登録そのものについては、概ね評価をいただいております。来年以降の冬季研でも引き続き行われるかと思ひます。今後とも冬季研の運営にご理解とご協力いただければ幸いです。

(北海道大学大学院工学研究院 谷 博文)

2014年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部主催の2014年夏季研究発表会が、7月12日(土)、苫小牧工業高等専門学校にて開催されました(共催：日本分析化学会北海道支部ほか6学協会)。

当初は台風8号の影響が心配されましたが幸いにも天候に恵まれ、当日登録含め240名を超える参加者がありました。一般発表は昨年度よりも10件ほど少ない120件でしたが、6会場で活発な討論が交わられていました。

特別講演は、上田幹人先生(北海道大学大学院工学研究科教授)による「溶融塩・イオン液体を用いた材料科学」と、榊原定征日本化学会会長(東レ株式会社取締役会長)＝写真右＝による「日本再興の鍵は化学に基づくイノベーション」の2件でした。上

田先生は研究のご一端を、榊原会長は日本化学会の国際化を中心に話されました。プログラムの最後でしたが、多くの方が聴講され、質問も多数あり大変盛況でした。



研究発表会終了後には市内のホテルに会場を移し、60名が参加して懇親会が行われました。榊原会長との記念撮影をされるなど、和やかに親睦が深められたようです。

校内の通信環境が整っていないため、要旨集が冊子体で配布されるなど、次の苫小牧開催に向けての課題もいくつかありました。

来年度の夏季研発表会は函館で行われます。

(苫小牧工業高等専門学校 奥田 弥生)

第30回緑陰セミナー・釧路

2014年7月19日(土)から21日(月・祝)までの3日間に山田幸司幹事が世話人となって、ロイヤルイン釧路(釧路市)で開催された。本年度はほとんどの参加者が遠方にも関わらず、九州支部からの交流行事参加者も含め53名もの参加者が集まった。

特別講演として、「有機色素固体の光機能性探索ー構造と物性の評価と相関ー」網本 貴一 先生(広島大学)、「ルミネセンスを利用する分析試薬の開発と応用」岸川 直哉 先生(長崎大学)、「地球・宇宙化学的試料の全岩化学組成の分析法」白井 直樹 先生(首都大学東京)、「食品加工におけるフレーバーとテクスチャー」井倉 則之 先生(九州大学)、「野生動物の命を守るー希少猛禽類の救護と環境治療の現場からー」齊藤 慶輔 先生(猛禽類医学研究所代表・獣医師)の5件の講演があり、分析化学に関わる幅広いテーマの研究成果を分かりやすくお話いただいた上に、時間を大幅に

超過する活発な議論が繰り広げられた。

また、30周年特別企画として、「緑陰セミナーの歴史を振り返る」と題するリレートークが行われ、過去に緑陰セミナーの幹事を務められた世話人の先生方から当時の思い出などの紹介があった。さらに、若手参加者から12件のポスター発表があり、参加者からの評価の結果、盆子原香さん(九大院農)、木村錬さん(北大院水産)、森谷友郎さん(北大院地球環境)の3名が最優秀ポスター賞の対象となった。講演後、釧路フィッシャーマンズワーフMooで行われた夕食会で、優秀ポスター賞とあわせて表彰が行われた。



今年度は、2泊3日と時間に余裕があったためか、より親密に交流が深められたようである。会場のセッティングや歓迎ポスターなどにご協力頂いた釧路観光コンベンション協会に感謝申し上げる。来年度は、大津直史幹事が世話人となり開催される予定である。

(北海道大学大学院地球環境科学研究院

山田 幸司)





2014 CALENDAR

開催日	事業名	開催地	担当幹事
【2014 年】			
7 月 12 日	2014 年 夏季研究発表会	苫小牧	奥田 弥生
7 月 19-21 日	第 30 回 緑陰セミナー	釧路	山田 幸司
8 月中旬	2014 年度 役員候補者選考委員選挙	札幌	
8 月中旬	支部ニュース第 49 号	-	川口 俊一 堺井 亮介
9 月 4 日	2014 年度 公開セミナー	旭川	堺井 亮介
9 月中旬	2014 年度役員候補者選考委員会	札幌	
10 月中旬	第 2 回 幹事会	札幌	
11 月 8 日	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	諸角 達也
11 月上旬	2015 年度 学会賞等受賞候補者推薦及び 2014 年度 北海道分析化学各賞受賞者選考委員会	札幌 〃	
12 月下旬	支部ニュース第 50 号	-	川口 俊一 堺井 亮介
【2015 年】			
1 月 予定	第 50 回 冰雪セミナー	未定	渡慶次 学
1 月 下旬	化学系学協会北海道支部 2015 年 冬季研究発表会 (2014 年度 北海道分析化学各賞授賞式)	札幌 〃	蠣崎 悌司
2 月 下旬	審議会(第3回 幹事会)	札幌	



2014年度 支部役員

支部長	宇都 正幸	北見工業大学
副支部長	久万 健志	北海道大学
	坂入 正敏	北海道大学
庶務幹事	村井 毅	北海道医療大学
	南 尚嗣	北見工業大学
会計幹事	吉村 昭毅	北海道医療大学
	谷 博文	北海道大学
監査	森田 みゆき	北海道教育大学
	黒澤 隆夫	北海道医療大学
他	参与 24 名 幹事 44 名	
事務局	〒090-8507 北見市公園町 165 北見工業大学マテリアル工学科内 公益社団法人日本分析化学会北海道支部 支部長 宇都 正幸 TEL : 0157-26-9454 E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp 事務局秘書 氏間 多伊子	

2013年度 会計報告の概要

支 出		収 入	
会議費	374,275	支部費補助金	856,300
講演会費	20,000	学会賞推薦委員会	10,000
研究発表会費	280,000	印税収入	136,086
セミナー費	495,000	受取利息	350
書籍出版費(印税)	114,400	討論会繰入金	1,391,130
書籍編集費	25,305		
北海道分析化学賞等経費	24,157		
学会賞推薦委員会費	16,282		
通信運搬費	65,047		
事務・消耗品費	63,607		
旅費交通費	23,340		
印刷費	39,050		
HP 管理費	7,596		
事務委託費	240,000		
雑費	8,640		
支出合計(B)	1,796,699	収入合計(A)	2,393,866
		当期収支差額(A-B)	597,167



支部会員の欄

この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。次の方々の入会が認められた(「ぶんせき」誌 2014 年 1 月号～6 月号のお知らせ欄掲載分)ほか、転入及び退会の情報をお寄せいただきました。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。

新入会のみなさん

久保 湊女(日生バイオ(株))

藤井 良昭(北海道立衛生研究所)

河島 孝典(北見工業大学大学院)

竹中 広大(北見工業大学)

久保 勘二(北海学園大学工学部)

飯島 瑞貴(北見工業大学)

岸 和樹(北海道大学)

サクテイ サティアチャンドラウィバ

(北海道大学大学院地球環境科学研究院)

櫻井 祥平(北海道大学)

(敬称略、順不同)

編集後記



支部ニュース第 49 号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご執筆頂きました宇都支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

私自身は化学センサを主軸に研究を推進してきたため、分析化学会に籍を置きながらも、討論会や支部の行事にはほとんど参加しておりませんでした。今回の編集活動を通じて、北海道支部の行事に関心を持ちまして、今年はじめて緑陰セミナーに参加させていただきました。道東の釧路という遠隔地であるにもかかわらず、非常に多くの方が参加され、二晩続いた交流会はとても楽しかったです。

次号も支部の活動を広く皆様に知って頂けるように尽力してきたいと思いますので、今後とも、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

(編集委員 : 川口 俊一、堺井 亮介)

北海道支部ニュース第49号
日本分析化学会 北海道支部

◆ 事務局

〒090-8507 北見市公園町 165

北見工業大学マテリアル工学科内

公益社団法人日本分析化学会北海道支部

支部長 宇都 正幸

◆ 編集・発行

公益社団法人日本分析化学会北海道支部

◆ 発行日 2014 年 8 月 15 日

TEL : 0157-26-9454 / E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp

URL : <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>